大阪大学オペラ同好会の紹介

随　筆

田 村 坦 之*

1. ま え が き

先日，基礎工学部化学工学科の駒沢教授よりお電話があり，「生産と技術」へ随筆として「オペラ同好会」の紹介記事を執筆するようにとのご依頼をいただきました．自分は早くも「随筆」の執筆を依頼されるような歳になったかと愕然とする一方，大阪大学における私達の同好会活動の状況をお知らせできるよい機会を与えていただいたことを有難く思います．

2. 同好会の誕生と初代会長

さて，「大阪大学オペラ同好会」は，昭和61年の暮れに，当時，事務局長をされていて，後にオペラの書物[1]まで執筆されている十文字孝夫さん（現在，学校法人太平洋学園理事長）のご提案により，元教養部長で名誉教授の越田豊先生，元工学部教授で名誉教授の住田健二先生，そして事務部では元蛋白質研究所事務長の長田和信さんと，現在，事務局総務部研究協力課専門員の大澤眞一さんらが中心になって結成されたものです．その活動は，オペラの好きな人達が一堂に会して，初代会長の十文字さん，長田さん，大澤さんのお世話のもとで，長田さんが収集されているレーザーディスクを皆で観ようというものです．

最初の頃は，医療技術短期大学部の小会議室を借りて開催され，ワインをなめながらオペラを観たあと，懇親会と称して一杯飲み屋へ繰り出し，お喋りを楽しんでいました．筆者は，第2回同好会から仲間入りさせていただきましたが，オペラは観ないで，懇親会にだけ出席する人もおられたようです．

十文字会長のもとでは，第5回同好会まで進みましたが，昭和63年10月に東京へ転勤されることになり，越田先生が第2代目の会長に就任されました．

3. 2代目会長と成長の時代

会場をいつも医療技術短大のお世話になって運営するのも心苦しいということになり，長田さんと大澤さんがあちこちの会場を捜された結果，平成3.7.13.開催の第10回同好会から，会場が万博公園内にあるホテル「オオサカサンパレス」の音楽スタジオに移されました．この時はモーツアルトの生誕200年の年にちなんで，「フィガロの結婚」（グラインドボーン）を観ました．

当時，国立国際美術館勤務の大澤さんの努力のお陰で，この会場を特別使用料のもとで利用できるようになったとはいえ，1回開催するのに部屋代や機器使用料として約2万円の経費がかかるため，出席者から会費（1000円）を徴収することになりました．当時の参加者は，多くても14-5名程度であったため，毎回赤字が累積してゆきました．初回の経費と累積した赤字は会長のポケットマネーで補填されていたようです．このような運営はまずいと思ったのは筆者だけではなかったと思います．年会費制によって，欠席者にもなにがしかの負担をしていただこうとの提案もありましたが，会長の了解がえられず，あとは会員と出席者をふやすしか手が

* Hiroyuki TAMURA
1940年3月9日生
昭和39年大阪大学大学院工学研究科修士課程修了
現在，大阪大学基礎工学部，システム工学科，教授，工学博士，統合システム解析
TEL 06−850−6375（直）

ないということになり，学外の人にも働きかけて会員をふやす努力が続けられました．その結果，第14回同好会(H5.3.23.)から，20名を越す方々に参加していただけるようになりました．

平成5年3月31日をもって越田会長は停年退官され，長田さんも定年により大阪大学を退官されることになりました．

そして，はからずも，会長職が筆者に回ってきたのです．自分は，オペラ好きだけれども十文字さんや越田先生のようにオペラについての豊富な知識を持ち合わせていないし，それにお二人のような大物でもないし，とても会長などは勤まらないと固辞したのですが，受け入れられませんでした．幸い，長田さんには引き続きレーザーディスクと会のお世話をお願いできるとのことで，第15回同好会から筆者が会長をお引き受けすることになり，現在に至っています．

4．もう一人の立役者

もう一人の立役者，それは住田先生です．往年の名バリトン歌手ハンス・ホッターの評伝の訳本[2]を執筆されている住田先生は，オペラについてプロの批評家なみに造詣が深く，これまで何度か曲目解説や演奏者に関する解説をしていただきました．中でも，R.シュトラウスの「ばらの騎士」やベートーヴェンの唯一のオペラ「フィデリオ」の名解説は今でも強く印象に残っています．

5．第15回から第21回同好会までの歩み

筆者が引き継いだ第15回から最新の第21回同好会までに観賞した曲目と，第22回同好会の予定をリストアップしておきます．

- 第15回　プッチーニ作曲「蝶々夫人」
  (ミラノスカラ座)(H5.7.10.)
- 第16回　R.シュトラウス作曲「ばらの騎士」
  (ザルツブルグ)(H5.10.16.)
- 第17回　ドニゼッティ作曲「愛の妙薬」
  (メトロポリタン)(H6.1.29.)
- 第18回　ヴェルディ作曲「アイーダ」
  (ヴェローナ)(H6.5.14.)
- 第19回　ベルリオーズ作曲「トロイアの人々」
  (メトロポリタン)(H6.9.10.)
- 第20回　ベートーヴェン作曲「フィデリオ」
  (コヴェントガーデン)(H7.1.28.)
- 第21回　モーツアルト作曲「ドン・ジョヴァンニ」(ミラノスカラ座)(H7.5.13.)
- 第22回　ワーグナー作曲「ワルキューレ」
  (メトロポリタン)(H7.10.14.予定)

写真：第21回同好会に集まった「大阪大学オペラ同好会」のメンバー(前列左から3人目が初代会長の十文字孝夫さん，後列左から8人目が長田和信さん，後列左から3人目が大澤眞一幹事，2列目右端は筆者)

これよりおわかりいただけるように，年に3回の同好会を開催しており，年度始めはオペラファンなら誰もが知っているポピュラーな曲を，次は4時間を越す大作に挑戦，そして3回目はテレビで放映されることも少ない比較的珍しい曲をという基準で，毎回世話人が次回の候補曲を3曲選び，その中から投票によって出席者の方々に選曲していただいて決めています．

写真は，第21回同好会に集まって下さった方々で，このときは39人の参加という空前の大盛況となり，椅子が足りなくて世話人一同は嬉しい悲鳴をあげる結果となりました．初代会長の十文字さんには東京からはるばるご出席いただいています．

6．むすび

以上，誕生して間もなく9年になる「大阪大学オペラ同好会」の活動状況をご紹介しました．機会があれば希望者を募って関西歌劇団や関西二期会による生のオペラも観に行きたいと，大澤幹事さんと話しています．

この同好会にご興味がおありの方は大澤幹事（大阪大学事務局 TEL：06-879-7032）または筆者（大阪大学基礎工学部 TEL：06-850-6375）までご連絡下さい．

引用文献

1) 十文字孝夫：オペラの幕は永遠に上がる，芸術現代社，1994．
2) ペネロペ・テューリング（住田健二訳）：ハンス・ホッター一名歌手の横顔，音楽の友社，1994．